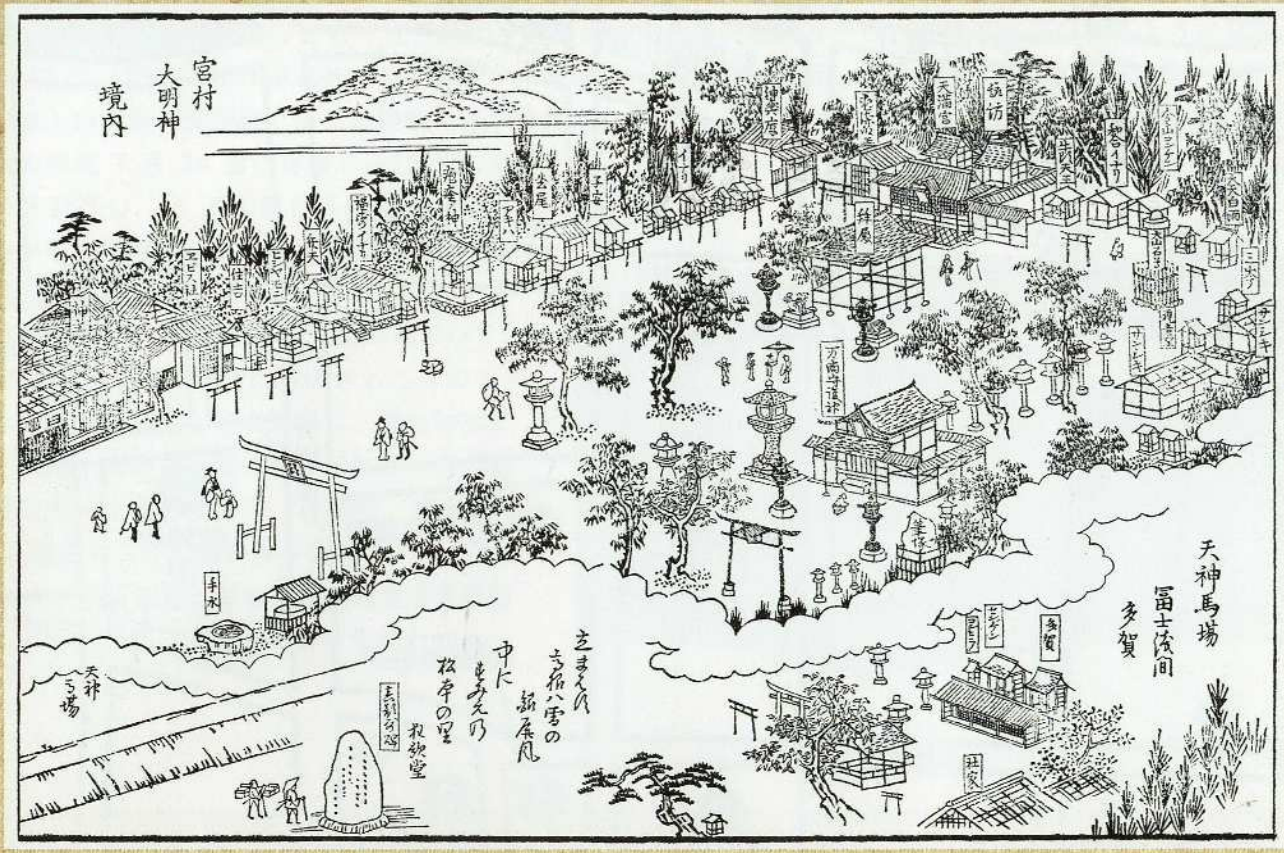
第二地区歴史マップ
まつもと文化遺産認定文化財



宮村大明神・冨士浅間社境内　　善光寺道名所図会（天保14年：1843稿）

商都庶民の暮しの中に息づく伝統と祈り

第二地区は市街地の中心部に位置し、地区の北側概ね半分が江戸時代には城下町で、東側と南半分は明治以降に市街地の拡大とともに街路が整備され発展してきました。

ここは地下水が豊富に湧き出ており、「源智の井戸」のほか沢山の井水とともに暮らしに根差した文化財が多く残されております。

祈りの核となる深志神社は、女鳥羽川以南の総鎮守として400年の歴史を誇ります。毎年７月の天神祭には、町ごとに建造した16基の舞台（松本市重要有形民俗文化財）が曳き出され、２基の神輿（松本市重要文化財）が第二地区18町を神幸し、壮麗な祭りに彩りを添え、盛大に執り行われます。

寺院は、廃仏毀釈により廃寺になりますが、再興され受け継がれました。また、火伏の秋葉神社や商売繁盛を祈願する真綿稲荷神社、厄除け北向観音堂、貞享騒動で義民助命に奔走した鈴木伊織の墓と伊織霊水などもあります。これらの文化財群が、地域に暮らす人々の信仰や日々の暮らしの営みと密接に関わって現在も存在し続けています。

【絵図の解説】

この絵図は豊田利忠が天保 14 年（1843）までに書き上げ、嘉永 2 年（1849）に刊行された「善光寺道名所図会」の「宮村大明神」の場面である。江戸時代後期の深志神社境内の様子がわかる。

図の右上奥の「天満宮」が菅原道真公を祭る社、その右の「諏訪」が宮村大明神の社である。その手前に「拝殿」がある。また、左には「神輿庫」とあり神輿を収納していた。境内にはたくさんの社が配置され、往時を偲ぶことができる。右下には「天神馬場、冨士浅間、多賀」とあり、冨士浅間社や多賀神社、金毘羅神社や著名な狂歌堂鹿部真顔歌碑が描かれ、そこから天神馬場が続いていた様子が描かれている。

令和５年11月　　第二地区：歴史文化継承委員会・町内公民館館長会・地域づくり協議会・第二地区公民館